

～エイズに関する基礎知識についてあらためて理解を深めましょう～

◎HIVって何？

HIVとは、Human Immunodeficiency Virus（ヒト免疫不全ウイルス）のこと。ヒトの体をさまざまな細菌、カビやウイルスなどの病原体から守るのに大変重要な細胞である、Tリンパ球やマクロファージなどに感染するウイルスです。

◎エイズって何？

HIVがTリンパ球やマクロファージなどに感染した結果、これらの細胞の中でHIVが増殖します。免疫に大切な細胞が体の中から徐々に減っていき、普段は感染しない病原体にも感染しやすくなり、様々な病気を発症します。この病気の状態をエイズ（AIDS: Acquired Immuno-Deficiency Syndrome、後天性免疫不全症候群）と言います。代表的な23の疾患（カンジダ症、ニューモチス肺炎、カポジ肉腫等）が決められており、これらを発症した時点でエイズと診断されます。

◎HIVはどうやって感染するの？

HIVに感染すると、HIVは血液、精液、膣分泌液、母乳などに多く分泌されます。唾液、涙、尿などの体液では他のヒトに感染させるだけのウイルス量は分泌されていません。感染は、粘膜（腸管、膣、口腔内など）および血管に達するような皮膚の傷（針刺し事故等）からであり、傷のない皮膚からは感染しません。そのため、主な感染経路は「性的感染」、「血液感染」、「母子感染」となっています。

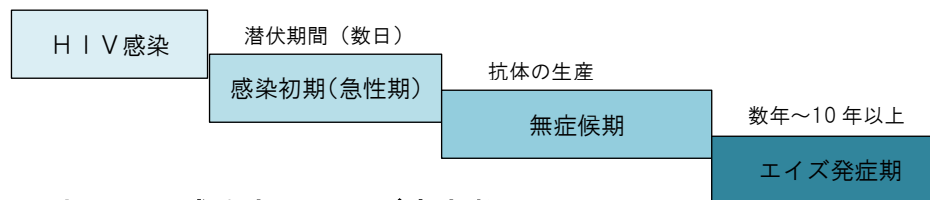
*エイズ発生動向調査は1984年より始まり、厚生労働省エイズ動向委員会が4半期ごとにデータを解析して発表しています。

(<http://api-net.jfap.or.jp/status/index.html>)

◎HIV感染からエイズを発症するまで

HIVに感染した後は、(1)感染初期（急性期）、(2)無症候期、(3)エイズ発症期の経過をたどります。感染初期では、HIVは体内で免疫のしくみの中心であるTリンパ球などに感染し、急激に増殖します。このため、感染者は発熱などのインフルエンザ様症状がみられることもありますが、感染者の体内の免疫応答により、数週間で消失し

ます。その後、無症候期に入ります。無症候期は数年～10年以上続く人もいますが、感染後、短期間のうちにエイズ発症をする人もいます。無症候期の間も、HIVは体の中で毎日100億個くらい増殖しており、Tリンパ球は次々とHIVに感染して平均2.2日で死滅していきます。そのため、免疫に大切な細胞が体の中から徐々に減って行きます。免疫不全状態となり、日頃かかることのない様々な病気にかかりやすくなり、エイズを発症します。



◎日本のHIV感染者・エイズ患者数

日本では1985年に初めてエイズ患者が報告され、2014年までにHIV感染者16,903件、エイズ患者7,658件、合わせて24,561件の報告がありました。2014年の新規報告者数は、HIV感染者が1,091件、エイズ患者が455件、合わせて1,546件で、2007年以降、年間1,500件前後の新規報告が続いています。性別・国籍別では、日本国籍男性が88%を占めており、感染経路別では、同性間性的接触が68%、異性間性的接触が19%となっています。

◎HIVの治療法

現在、HIVを体内から完全に排除できる治療法はありませんが、抗HIV薬によってウイルスの増殖を抑えることが可能です。エイズの発症を防ぐことで、長期間にわたり健常時と変わらない日常生活を送ることができ、HIVを持っていない人と変わらないくらいの寿命が期待できます。HIV感染が判明したら、できるだけ早い段階で抗HIV療法を開始することが勧められています。

現在では1日1回1錠（1錠の中に3つもしくは4つの薬の成分が入っている）の服薬でHIVの血中ウイルス量が検出限界未満に抑えられ、他の人へHIVを感染させる可能性が低くなります。ただし、抗HIV薬はきちんと飲み続けないと、HIVが薬に対して耐性を獲得してしまい、薬が効かなくなってしまう。いったん治療を開始したら、特別な場合を除き、治療を継続する必要があります。

参考HP: (<https://www.hivkensa.com/soudan/>)

